

JAIR NEWSLETTER

日本国際政治学会

No. 6

January 1979

理事長再任にあたって

理事長 細谷 千博

近く刊行される機関誌「回顧と展望」の特集号がひとつの見取図をしめしてくれるだろうが、これまでわれわれは国際政治の理論と歴史の分野で、国際的な共有財産を豊かにし、学問の国際的水準を引き上げるうえでどれほどの寄与をしてきただろうか、との疑問が不図湧いてくる。とくに理論の分野では、知的財の国際収支のバランスは圧倒的な輸入超過といって差支えないであろう。

最近海外の学界では、日本の社会科学者の仕事に対する注目と期待が高まっているやに見える。すぐれた工業製品を生み、高い技術水準を自然科学の分野で発揮している日本のことだから、国際政治の研究分野でも何かユニークな発想にもとづく知的生産や、新しい概念装置、研究手法の開発が進められているのではないかといった期待感がそこにある。

そのような期待に応えるには、まだ日本の学界の現状の大勢は輸入志向型で、議論もおおむね国内消費であるのは残念であるが、もうそろそろこのようなパターンから脱皮、変化が現われてきてよいのではないか。今年はトロントでのISAの年次大会（3月21日—24日）につづき、8月中旬にはモスクワでIPSAの大会がある。このような会議で海外の要望に応える、すぐれた報

告を行う会員が多く出てほしいし、今度は報告の申込み期限に間に合わないとしても、せめて多数出席されて国際交流の経験を積んで頂きたいものである。

本学会としても、ISA、BISAとの間で推薦論文の交換掲載、学会活動の情報交換、メンバーの乗入れ、共同シンポジウムの開催（77年10月中旬）といった交流活動を行ってきたが、将来英文でニュース・レター、さらには機関誌を発刊できるようになれば、交流は一段と深まることであろう。

今回で6号になるニュース・レターは幸い好評で、新しい試みは成功したようであるが、会員諸賢からもっと学会の運営や研究大会のもち方、機関誌のテーマなどについてご意見をお寄せ頂きたい。また内外の学会やシンポジウムなどへの出席の感想やら海外の研究センターの紹介や著名・新進の研究者の横顔などについてのご寄稿も頂きたいし、もっと紙面を積極的に活用し、相互交流の場としての機能を十分に発揮してほしいものである。

有能な松本三郎教授にご無理をお願いして、再度編集主任をお引き上げ頂いたが、紙面をより充実させ、マンネリズムを排するためには何よりも会員諸賢の積極的なご協力が必要であり、その点お願いする次第である。

学会活動報告（昭和53年9月～12月）

9月8日 新評議員の投票（郵送）による次期理事・監事互選依頼状の発送（23日締め切り）
9月25日 同投票選挙管理委員会開催、次期理事35名・監事3名選出（10月1日就任）
10月27日 第3回運営委員会開催
10月28日～29日 秋季研究大会開催（於一橋大学）
大会出席者約350名、懇親会約120名
10月28日 第2回理事会（新理事による）開催、次期理事長に細谷千博氏（一橋大学）を再選、副理事長に谷川栄彦氏（九州大学）を選出（11月1日就任）
10月28日 機関誌『国際政治』第60号（昭和53年度第2

号）「国際経済の政治学」の発行、配布
10月29日 第3回拡大編集委員会・第2回編集委員会開催
11月29日 第2回総会開催
10月30日 R. ギルピン教授（プリンストン大学）講演会開催（アメリカン・センターとの共催、於アメリカン・センター・ホール）、テーマ「アメリカの多国籍企業とアメリカの外交政策」
10月31日 同教授講演会開催（大阪市立大学経済研究所との共催、於大阪市立大学）
11月4日 バン・ネス教授（コロラド大学）講演会開催（於学士会館）、テーマ「第三世界に対する中国の外交政策」
12月23日 第4回運営委員会開催

学会組織図

理事長
副理事長
細谷川
千栄
博彦

運営委員会

学会運営の全般に関する審議

〔細谷千博(主)・谷川栄彦(副)・川田 侃・小林幸男・関 寛治・永井陽之助・
福田茂夫・武者小路公秀・宇野重昭・松本三郎・大島英樹〕

企画・研究委員会

全国的な会員間研究組織の統括・推
進・国際会議の企画

〔武者小路公秀(主)・関 寛治(副)〕

研究分科会

日本外交史〔大畑篤四郎〕, 東アジア国際政治
史〔宇野重昭〕, ヨーロッパ国際政治史〔平井
友義・百瀬 宏〕, 東アジア〔中嶋嶺雄〕, ソ連・
東欧〔木戸 蕨・西村文夫〕, 東南アジア〔長
井信一〕, アフリカ・中近東〔浦野起央〕, アメ
リカ政治・外交〔有賀 貞〕, 国際統合〔中原
喜一郎〕, トランス・ナショナル〔馬場伸也〕,
国際政治経済〔山本 満〕, 政策決定〔渡辺昭
夫〕, システム・リンケージ〔織 完〕, 安全
保障〔佐藤栄一〕, 数量政治〔山本吉宣〕, 平和
研究〔高柳先男〕: 他に研究分科会に準ずる研
究会(2)

編集委員会

機関誌の企画・編集および発行

〔川田 侃(主)・有賀 貞・白井勝美・
白井久和・佐藤栄一・中西 治・西
原 正・初瀬竜平・藤井昇三・森
利一・山本満・吉村道男・渡辺昭夫〕

ニュース・レター委員会

ニュース・レターの企画・編集および発行

〔松本三郎(主)・田中俊郎・毛里和子・南 義清・横山宏章〕

交換論文審査委員会

ISA・BISAとの交換論文の選考

会計部

予算の作成等会計業務全般に対する統括

〔宇野重昭(主)〕

事務局

研究大会開催に関する業務

機関誌, ニュース・レター, アンケート等の発送業務

各委員会との連絡, その設営等の調整, 補助業務

ISA・BISAその他との対外交関係業務

会費関係業務

各種問い合わせの処理その他

〔大島英樹(主)・馬場伸也(副)・志鳥学修・松坂妙子・生島佳代子〕

〔作成 大島英樹〕

新理事・監事(1978年10月1日~1980年9月30日)

理 事	池 井 優	石 川 忠 雄	板 垣 與 一	宇 野 重 昭	白 井 勝 美
	内 山 正 熊	浦 野 起 央	江 口 朴 郎	衛 藤 藩 吉	大 畑 篤 四 郎
	大 島 英 樹	大 山 梓	岡 部 達 味	神 谷 不 二	川 田 侃
	木 戸 蕨	栗 原 健	小 林 幸 男	高 坂 正 堯	関 寛 治
	谷 川 栄 彦	永 井 陽 之 助	中 原 喜 一 郎	馬 場 伸 也	前 田 慶 穂
	平 井 友 義	福 田 茂 夫	藤 井 昇 三	細 谷 千 博	松 本 三 郎
	宮 里 政 玄	武 者 小 路 公 秀	山 極 晃	山 本 満	嶺 山 道 雄

(全35名)

監 事 坂 本 是 忠, 高 橋 通 敏, 吉 村 健 蔵 (全3名)

研究分科会の紹介と近況

安全保障部会

佐藤 栄一（日本国際問題研究所）

本学会の安全保障部会の世話役を昨年暮れ急におおせつかりました。浅学非才、かついまなお勉強途上にある私といたしましては、分不相応な仕事であるとは思いましたが、この部会自体はきわめて重要な研究テーマをかかえるものであり、それが設置以来、依然として休眠状態であることは、まことに学会にとって損失であると考え、研究の場を設営するための単なる連絡係としておひきうけいたすことにいたしました。ご協力をお願い申し上げます。

現在のところ、安全保障問題に興味をもち積極的に参加・活動する意欲のある分科会会員の名簿作りをはじめている段階です。参加ご希望の会員からのご連絡をお待ちいたしております。なお、そのさい、所属、専攻、年令、研究会に出席可能な曜日・時間帯（午前・午後・夜）を必ずお書き下さるようお願いいたします。

なお、これまで研究部会は昨年未よりすでに2回開催いたしました。第1回は、1978年12月26日夜6～9時、場所：日本国際問題研究所、報告者：国立国会図書館外務課、宮脇岑生氏、東京経済大学教授、松隈徳仁氏。「報告テーマ」：ヨーロッパにおける安全保障問題の研究動向について（備考、両会員の欧州滞在経験を中心とした報告をもとに討論）。

第2回は、1979年1月17日午後3時～5時30分、於日本国際問題研究所、イギリスの国際戦略研究所の前副所長ケネス・ハント氏の来日を機会に、日本国際問題研究所が講演・懇談会を行なったさい、本部会所属の会員数名に連絡その参加を求め、ハント氏との有益な意見交換を行なった。

本部会のメンバーが適正規模で確定しだい、会員相互の連絡、次回研究会のご案内などに万全を期して、研究成果の向上につとめるつもりであります。

〔連絡先：佐藤栄一、日本国際問題研究所気付

国際政治経済部会

山 本 満（法政大学）

第2回の研究会を12月13日 5：30—8：30 pm、日本国際問題研究所の会議室を借用しておこないました。出席者14名。佐藤英夫氏（エール大）に報告をお願いし、討議もはずみました。報告の主題はつぎのとおりでした。

①国際経済問題にたいする国際政治学者の関心動向、研

究方法（アメリカのばあい）②報告者がアメリカ人研究者と共同でおこなった日米繊維交渉の研究に即しての、経済問題の国際政治的次元の分析。

次回は3月を予定しています。研究会の通知を希望される方は下記へハガキでお申込み下さい。

〔

新 著 余 滴

『東南アジア政策』（サイマル出版会）

矢 野 暢

1977年8月18日に福田首相が声明したいわゆる「福田ドクトリン」は、戦後日本のアジア政策の上で、大きな画期点をつくったように思う。この本は、その前後に、日本人が東南アジアについてどのような政策的論議をかわしたか、そして、そこからどういう問題が浮かび上がったかを、私なりに批判的に整理した作品である。

このような政策論を本にしたのは、実は初めてのことである。私の手許には、77年の政策決定に関してはかなり資料が集まっているが、中には微妙な性質のものもある。しかし、貴重な事実を含んだ同時代的証言にしたいとも思い、事実関係はかなりはっきりさせておいた。

本の構成としては、いろいろ考えた挙句、「南北問題」と「文化交流」が日本の東南アジア政策の二本の柱になるべきだという結論に達し、その二つのテーマを私なりに強く表に出すことにした。それと同時に、日本の責任分野としての東南アジアの重要性を強調しながらも、日本が単純でいわば「ヒンターランド」としてこの地域をかかえこむことの危険も強く説いた積りである。

このような本を出すことは、2、3年前から考えていたが、タイミングを捉えるのが難しかった。なにせ、日本の政策が急速に変わるし、国際環境も変化する、78年3月にまる1月つぶしてこの本をいっきにまとめあげたあとでも、インドシナ情勢が急変し、慌てなくてはならなかった。ただ、「福田ドクトリン」1周年目というのは、タイミングとしては悪くなかったと思う。

タイトルをつけるのには苦勞した。出版元のほうは、副題の「疑いから信頼へ」などの表現を固執したが、そのようなきれいごとは困るということで斥け、最終的には「東南アジア政策」におちついた。「日本の東南アジア政策」という案もあったが、いろいろ考えて「日本の」を落とすことにした。それでよかったと思う。

1979年春季研究大会の予告

日 時：1979年5月19日（土）、20日（日）
場 所：慶應義塾大学三田校舎
共通テーマ：日本外交の理論と歴史

資料センターめぐり

アメリカン・センター図書室

安藤金次（東京アメリカン・センター）

アメリカン・センターは、現在、東京を始めとして、大阪、京都、名古屋、福岡、札幌の六都市にあり、それぞれの活動規模の差異はあるが、ほぼ標準化された蔵書構成をもつ一般公開の図書室を併設、運営している点は共通している。特定の奉仕目的を持つアメリカン・センター図書室は、国際関係・経済・現代アメリカ社会・芸術・21世紀の世界という五つの領域について、図書・雑誌・ビデオカセット及びマイクロフォーム化された各種資料を、重点的かつ選択的に収集し、日本の各専門分野

のアメリカ研究者の利用に供している。近刊図書及び約150種の定期刊行物の最近号は、すべて航空便でワシントンから送られて来ているが、近刊図書（国際関係分野は約400冊）の外に、充実した参考図書のコレクション（東京2500冊、他は1500冊——館外貸出禁止、ただし複写設備あり）があり、東京の参考図書コレクションには、国務省発行 *Foreign Relations of the U.S.* (1862—1951年の主としてアジア・太平洋地域関係) など、史料価値ある図書が含まれている。また、マイクロフィッシュ資料の中には、“議会情報サービス”(CIS)のように、アメリカの外交政策・国際関係研究者にとって、高度の利用価値あるものも含まれている。雑誌のバックナンバー以外は、すべて公開書架に備付けられており、館内閲覧は全く自由であるが、所定の登録手続きを経て館外借出も容易に出来る。

学会余録

黒川修司（一橋大学）

昨年秋の学会開催校であった一橋大学の一員として、学会開催についての苦勞話か、または今後役に立つ助言を書くようにとの依頼でしたので、助手である私が差し出がましいようであるが、あえて二、三指摘したいと思います。まず最大の問題は、学会開催のマニュアルがないことである。どんな仕事を、いつまでにどのくらいの人でやれば良いのか全く不明であった。学会としてマニュアルを早急に作成すべきであろう。第二は諸先生方へのお願いで、時間を厳守して戴きたい。事務局は専従がいなかったため人員の余裕は全く有りません。例えばレジュメについても、今後は締切り後は報告者自身が印刷するようになさって戴きたい。第三は会場の設定である。一橋大学の場合には、二つの部会が同時進行した時に参加者のアンバランスが生じてしまい、途中で教室の変更をお願いしなければならなかった。部会制を続ける場合には、参加者の人数によっては教室の配分が問題となつてこよう。常にそうであろうが、懇親会の会場、人数、予算、料理の決定、セッティングにはかなり頭を悩やまされてしまった。

学会も一日目の夕方には雨に降られてしまい、懇親会、さらに二次会への足が混乱したが、都心より一時間とやや遠い地で開催した学会を、ほぼ大過なく終らせて、二日目の夜には関係者一同ほっとして、飲んだ酒も格別の味でした。

最後に後輩の大学院生諸君と、研究室の松坂妙子・生島佳代子・石橋雅子さんの御助力と御活躍なしには、とうてい学会開催という大任を果せなかったことは明白であり、心よりお礼申し上げます。

編集後記

松本三郎（慶應義塾大学）

細谷理事長より学会のニュース・レターを出すことになったので担当してほしいと大役を仰せつかってから早くも2年経ち、編集をお手伝い願うことになった南義清（信州大）、毛里和子（日本国際問題研究所）、田中俊郎（慶應義塾大）三氏の御協力を戴きつつ、この間に6号を発行することができました。どれだけ所期の目的を達することができたか反省することの多い昨今です。

マンネリ化を避けるために編集を新しい方にバトンタッチした方がよいと申出ていたのですが、理事長より「重任するように」との仰せがあり、結局「昭和一ケタのお人好」という言葉があるそうですが、またお引受することになりました。今後はこれまでも大変御協力戴いた前記三氏に加えて、横山宏章氏（明治学院大）にも新たに編集に加わってもらうことになりました。

学会会員諸兄姉のアドバイスや御提案に耳を傾けながら、よりよいニュース・レターを発行していきたいと思っていますので、倍旧の御協力を戴きますようお願いいたします。

昭和54年1月31日 発行

日本国際政治学会

ニュース・レター委員会

〒108 東京都港区三田2-15-45

慶應義塾大学法学部松本三郎研究室内

発行人 細谷千博

編集人 松本三郎

印刷所 梅沢印刷所